

意深くルールを制定した。即ち、編入希望学生に対しても QE 受験並びに編入コースの最低限の要件として上述の QE 受験・合格要件をそのまま(「インターンシップ参加」や「人文社会系の単位を一定数以上取得」も含めて)課している。もちろん非グリーンアジアコース生が履修してきた科目は本プログラムで用意しているものとは当然異なるので、単位区分の読み替え等の配慮は行った。今回は九大総理工の「エネルギー環境理工学グローバル人材育成のための大学院協働教育プログラム(通称:キャンパスアジア EEST)」を修了し、修士のダブルディグリーを持つ2名の学生が本コースへの編入を希望し、6名のグリーンアジアコース生とともに QE に臨んだ(表 2-20)。



写真 2-36. 平成 26 年度 QE(2 期生内部進学者)

表 2-20. 2 期生の内部進学者の QE 対象者, 受験者および合格者

専攻	対象者	受験者	合格者
総理工・量子プロセス理工学専攻	6 (1)	5 (1)	4 (1)
総理工・物質理工学専攻	1	1	1
総理工・環境エネルギー工学専攻	1 (1)	1 (1)	1 (1)
工・資源システム工学専攻	1	1	1
計	9 (2)	8 (2)	7 (2)

()は編入希望者

今回の QE では、残念ながら1名の学生が合格基準に達しなかったため不合格となった。QE には不合格となったものの、前年に定めた学位授与・進路選択のルールに沿って当該学生には修士号が授与され、また本人の意思により通常の博士後期課程へと進学している。

運営体制としては、前年の過密スケジュールの反省を踏まえ早い段階での準備を進めた結果、コース生・スタッフともに前年ほどの負担がかかることは無かった。次回は 2 期留学生の QE が 2015 年夏に控えている。留学生の QE は初めてであるため、1 期生の時のような過密スケジュールが生じることの無いように 2015 年 4 月現在早々に準備を始めている。

2.8. 成績管理

コース学生が入コース以後に受講した授業科目の成績、メンターによるレポート(指導報告書)、コース生による提出物(実践産業科目のレポート等)は、コース生毎にポートフォリオとして整理、管理している(写真 2-37)。コース生の提出物についてはプログラム教員

による英文添削等の履歴がわかるようにしている。



写真 2-37. ポートフォリオ